

川崎幼稚園 安全管理委員会 議事録

1. 日 時 令和8年6月11日（木）13：30～15：00

2. 場 所 川崎幼稚園 職員室

3. 出席者 理事長 副園長 副主任2名
外部委員（有識者）1名

4. 議題

■（1）安全管理委員会委員紹介

増田理事長より開会に先立ち挨拶があり、出席者が順に自己紹介を行った。

■（2）令和5・6・7年度安全管理委員会報告

増田理事長及び令和7年度委員より、令和5年度から令和7年度までに実施した安全管理委員会の内容について報告があった。

■（3）令和8年度安全管理委員会報告

令和8年度委員より、令和8年度に実施した安全管理委員会の内容について報告があった。

■（4）講評（外部委員）

【安全管理委員会の継続的な運営について】

- ・安全管理委員会の取組については丁寧に実施されている。毎年内容を変更するのではなく、事故事例の分析、職員のリスク行動の把握、リスクマネジメントなどの取組を継続し、年間サイクルの中で進めていくことが重要である。
 - ・安全管理委員会の進め方だけでなく、職員への教育・指導や子どもへの伝え方も含めて取り組む必要がある。
-

【マニュアル整備と情報共有について】

- ・園の現状や課題を整理し、マニュアルや職員会議録へ反映することで「見える化」を進める。
- ・マニュアル改定は委員会を中心に行い、外部委員や保護者にも確認してもらう体制が望ましい。
- ・事故事例や現在の課題を基にマニュアルを見直し、職員への周知を徹底する。

- ・特に非常勤職員については、研修の場を設けるか個別に伝達するなど、確実な情報共有の方法を検討する必要がある。

【安全管理における教育的視点】

- ・令和8年4月の安全管理委員会報告では、「意見を出して終わってしまい、実行や決定に至らないことが多い」との反省があった。安全管理を教育の視点から考えることも重要である。

- ・理解が難しい子どもには別の方法で伝える、子どもの人数を減らして人の動きを管理する、柵などを設置して物理的に危険を防ぐといった多様なアプローチが必要である。

- ・事故の発生要因については、ルールや環境面だけでなく、子どもや職員の心身の状態にも着目する必要がある。子どもについては、寝不足や朝食欠食など生活習慣の乱れが事故につながる可能性があり、職員についても疲労やストレスの蓄積、業務負担の偏りによって注意力が低下し、事故のリスクが高まる。

- ・特に新年度や低年齢児は事故が発生しやすい傾向があるため、子どもの様子や行動の変化に十分配慮する必要がある。また、子どもは気分や感情の影響を受けやすく、落ち込んでいる時には注意力が低下し、反対に嬉しい時や興奮している時には走るなど行動が活発になることから、日頃から子どもの心理状態を把握しながら安全管理を行うことが重要である。

- ・「走ってはいけない」というルールだけでなく、標識を設置するなど分かりやすい工夫も必要である。

- ・改善の第一歩として、物の配置を見直すことは効果的であり、「見える化」によって職員間で共有しやすくなる。

【安全と安心の発信について】

- ・安全管理委員会は「安全のため」だけでなく、「安心を提供するため」にも実施するものである。

- ・川崎幼稚園が子どもの安全のために継続的な取組を行っていることを、保護者や地域へ積極的に発信していくことが大切である。

- ・園だより等で、「今年度は〇〇に取り組んだ」「ご家庭には〇〇をお願いしたい」などの情報を発信し、安心感の醸成につなげる。

- ・安全への取組内容を A4 用紙 1 枚程度にまとめ、公表することも有効である。

【事故・ヒヤリハットの数値化について】

- ・事故記録やヒヤリハット事例を数値化し、経年比較できるようにする。

- ・例として、「園庭でのヒヤリハット件数」「けがの件数」「前年比〇%減少」などを示す。

- ・園児数の減少を踏まえ、件数だけでなく事故率も算出する。

- ・ Google フォーム等を活用し、「場所」「時間」「けがの内容」などを記録・集計しやすい仕組みを整備する。

- ・ 事故記録については、長期的な傾向を把握するため、10 年分を集計し分析する。

【子どもへの安全教育について】

- ・ 大多数の子どもへの指導は一定の成果が得られるが、理解が難しい子どもへの伝え方を工夫する必要がある。

- ・ 外国籍の子どもの増加も見据え、絵やイラストを活用した掲示等を検討する。

- ・ 安全指導においては、継続的な指導により約 95%の子どもは理解し行動できるようになるが、残る約 5%の子どもにどのように安全教育を届けるかが重要である。また、外国籍の子どもの増加も踏まえ、絵やピクトグラム等を活用した視覚的に分かりやすい掲示や指導方法を取り入れることが有効であるとの意見が示された。

【マニュアル整備について】

- ・ 事故を未然に防ぐためのマニュアルと、事故発生時の対応マニュアルの両方を整備する。

- ・ 熱中症対策であれば、予防のための暑さ対策、水分補給、日陰の確保等の情報と、発生時の対応手順を整理する。

- ・ さらに、再発防止策や被害者・保護者への対応、心のケアなども含める。

- ・ 「発生前」「発生時」「発生後」の流れが分かるよう整理する。（いつ・誰が・何をするか）二度と事故が起こらないようにするため。

- ・ 本マニュアル（分厚い）と簡易マニュアル（最低限・絶対に覚えておくもの）を作成し、必要に応じて使い分ける。

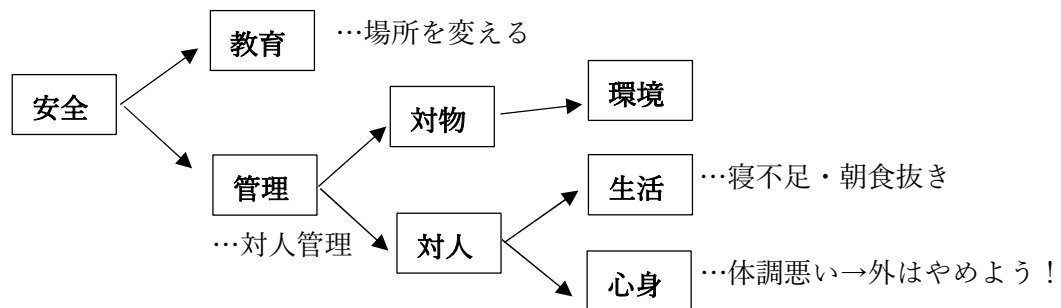
- ・ プール時には監視図や簡易マニュアルをポケットなどに入れ携行できるようにする。

【不審者対策について】

防犯上の理由から公表は控えます

【今後の優先課題】

- ・ヒヤリハット及び事故記録の数値化を進める。
- ・実施すべき内容を整理し、職員への周知方法について具体案を検討する。
- ・特に非常勤職員への伝達方法を確立する。
- ・ヒヤリハットや事故記録の内容がどの程度共有されているか、またマニュアルが活用されているかを確認する。
- ・全職員が集まる機会を定期的に設ける。対面が難しい場合は Web 会議の活用も検討する。



以上で、会議を終了した。